

平成17年度 三芳町男女共同参画推進会議の活動状況

三芳町男女共同参画推進会議は、男女共同参画の推進を目的とした事業を行政と協働で取り組む団体で、公募により選ばれた9名で構成しています。



●平成17年度 共に生きる女と男のセミナー●

- <第1回目> 平成17年12月18日(日)
講演テーマ「男もつらいよ！～もっと豊かに快適に～」
講師：瀬地山 角 氏 (東京大学助教授)
- <第2回目> 平成18年2月19日(日)
講演テーマ「新しい家族のかたち」
講師：鈴木 光司 氏 (作家)



活動内容

- * 「共に生きる女と男のセミナー」企画・運営
- * 情報誌「まなざし」企画・編集
- * 日本女性会議ほか研修 など



● 平成6年より実施されているこのサミットが私の出身地で開催されるとの情報を、地元で活躍されている恩師より頂いた。“条例制定や宣言の施行を進めている市や町の活動状況を知りたい”そんな思いで参加した。東北の11月にしてはとても暖かく、紅葉の美しい一日だった。会場では「日本女性会議2005ふくい」(10月)で分科会が一緒だった宮城県の方との再会を喜び、席を並べた。オープニングは、開催地気仙沼市の男女共同参画宣言文にメロディを付けた“リアスの風”のコーラスと保存会による早稲谷鹿踊。故郷の新しさと懐かしさを一度に味わった。宣言都市首長8名によるシンポジウムで私が特に注目したのは、市民の男女共同参画に対する理解を深めるため、市民研修や団体研修会の開催、『推進月間』と位置づけての広報啓発活動。そして各種審議会の女性委員の比率が平成20年度までに40%へ着実に近づきつつあるという都市など、市民全体で取り組んでいる現状だった。三芳町でも町民や事業者の方と共に研修会を開催して、男女共同参画に対する理解を深めていく必要がある。女性の積極的な社会参加や起業支援、子どもを預けて安心して働ける環境づくりに向けて、行政と地域が一体となった“共に語れる町・共に生きる町・あたたかな「まなざし」の町づくり”の推進に協力していきたいと思う。

「全国男女共同参画宣言都市サミットin気仙沼」(2005年11月11日)に参加して

委員 浜砂豊子



● 『お笑いジェンダー論』の著者、瀬地山角先生をお迎えして、関西弁?での楽しいお話を聞くことが出来た。ご自身も現在子育てをしながらいろいろな問題にぶつかり、正面から真剣に取り組んでいる姿には敬服した。NPO法人の保育所を立ち上げ、理事として頑張るなど、なかなか出来る事ではない。少子高齢化が問題化されてからだいぶ経つが、一向に改善されていない現実を、山林に例えてお話され、伐採の後、植林をする事業者と、一切関心を示さず伐採だけをする事業者のお話はとてもわかりやすく、女性の出産・子育てに無関心ではいられなくなった。これは女性一人一人の問題ではなく、大きな社会問題であり、企業の問題としても大切に議論して頂きたいと思う。子供を生み育てるのに、あまりにもお金のかかりすぎる現実や保育所の不足等まだまだ問題が多い。安心して子供の産める社会、男女関係なく育児休業の取れる職場になってほしい。今回、男性の参加が多く、タイトルの“男もつらいよ”と男性講師のお話に強い関心を示されたようだ。また定年後の過ごし方に悩みやつらさを持っているように感じられた。高齢化が進む中で、共に楽しく生きる事の大切さを学んだ。

共に生きる女と男のセミナー①の報告

委員 小島千賀子



● 2005年9月、県主催でドメスティック・バイオレンス(DV=夫やパートナーによる暴力)について5回コースの講座が開催され、推進委員6人で参加。内容は「DVの基礎知識」から始まり、「相談と被害者支援」「改正DV防止法」「激増する外国人妻への虐待」等だった。私自身は新聞で知る程度の知識しかなかったもので、事例を交えた話、元被害者の体験談等、とても衝撃的だった。DVには3つのサイクル(暴力の爆発期→ハネムーン期→緊張の蓄積期)があり、この周期が繰り返され「もうしない」等の言葉で治ったと思いがちだが、決して治らない、早くその場から逃げ出すことしかないという話だった。また、驚くことに、“デートDV”(デート中の恋人間の暴力)も増加しているという。相手からの束縛や干渉を愛情と勘違いしてしまうようだ。「本当はいい人」の言葉の裏にそんな危険が含まれているのかもしれない。被害者の多くは生活力が無いために、そこから逃げ出せずにおり、女性が自由を手にするためにも経済的自立が必要との話には共感した。DV原因の根底に女性蔑視があり、女性の性が妊娠・出産・子育ての性とされ、故に経済的自立が阻まれているという現状に改めて男女が協力して共に生きる必要性を実感した。

「DV被害者支援ボランティア」に参加して

委員 鵜飼登美子



● 2005年10月7日「女と男が創る豊かな未来 ともに語ろう不死鳥の郷土で」をテーマに日本女性会議が福井県で開催され、三芳町を代表して5名が参加。全国の男女共同参画への取り組みや活動推進の様子を学び、幅広い研修の機会となった。日本では少子化傾向が一段と進み、21世紀の課題の中でも特に深刻な社会問題となり、子育て・家庭・地域・仕事・社会などのあらゆる分野で男性も女性も大切な構成員として、パートナーシップの重要性が注目されている。また、個人が向き不向き・体力・能力のままに自由に職業を選択し、いきいきと力を発揮できる社会に期待は大きい。日本女性会議での2日間、会場や移動のバスの中、ホテルのロビーどこでも行きあった方に「どちらから来られましたか？」と気軽に声を掛け合ってきた。同じ目標があることで自然に心も開かれ、元気が顔を出す。それぞれの地域や担当する分野において男女共同参画の取り組みへの課題や困難はあっても、力強いネットワークが推進力の正体となっていることに気付いた。そして今回の研修に参加して、誰もが望む“豊かな未来”は、「お元気ですか?」「お変わりありませんか?」と気遣う勇気の一言を積み重ねた土台の上に構築されていくと心から感じた。

「日本女性会議2005ふくい」に参加して

委員 山崎和美

